

## 新潟県シダ植物の分布追加 (3)

登坂 裕一

## 分布追加

1 イノモトソウ *Pteris multifida* Poir.

東蒲原郡阿賀町上戸谷渡 沢口35m:TY-32060(2009. 4. 5) [津川392375-22, 環境省3次メッシュ5639-42-86]  
ススキ草原縁の南西向急斜面に点在し、トラノオシダ、オクマワラビが混生していた。付近には、やや離れてオオバノイノモトソウもあった。

東蒲原郡三川村(現阿賀町) 川口40m:TY-29192(2004. 2. 21); 50m:TY-29190(2004. 2. 21) [津川392375-32, 環境省3次メッシュ5639-43-60]

東蒲原郡鹿瀬町(現阿賀町) 向鹿瀬昭和電工坂下65m:TY-28071・28072(2002. 5. 25) [津川392375-41, 環境省3次メッシュ5639-43-38]

『東蒲原郡史 資料編10 自然』(2008)の「多種に富むシダ植物」の章で、イノモトソウの記述の基となった資料である。

西蒲原郡弥彦村麓<県道561号線>150m:TY-32828・32829(2010. 1. 11) [弥彦384375-21, 環境省3次メッシュ5638-46-15]

落葉広葉樹林縁の北東向の石垣に100株以上群生し、オクマワラビ、リョウメンシダ、イノデ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツが混生していた。

長岡市(旧三島郡越路町) 岩田墓間<林道南河内山田線>100m:TY-32698(2009. 11. 22) [柏崎383373-41, 環境省3次メッシュ5638-05-38]

落葉広葉樹林縁の南向急斜面に生え、イヌワラビ、イワガネソウが混生していた。約1.5m離れた所にオニカナワラビがあった。『越路町史別編1 自然 シダ植物の分布』(1998 牧野恭次)には、越路町東谷にイノモトソウの分布記録がある。

南魚沼市(旧南魚沼郡六日町) 八幡八幡神社165m:TY-32526(2009. 10. 16) [十日町384371-32, 環境省3次メッシュ5538-47-80]

神社入口のサクラ並木の下、小さな水路の北西向の石垣に1株だけ生えていた。

30年ほど前、筆者は、牧野恭次氏から「六日町の八幡神社には、タニヘゴが群生し、タニヘゴモドキもあり、多数のシダが見られる」と聞かされ、シダ観察のため当地を訪れたことがある。現在、神社付近はすっかり整備されている。タニヘゴの群生が無くなったことは、数年前、電車の車窓から眺めて知った。2009年10月16日、再訪し、昔の植生が全くなくなっていることを確認した。大変残念であったが、そのかわりに以前なかったイノモトソウを見つけた。『新潟県の羊歯植物誌』(牧野恭次 2000)にも記録がないので、近年入り込んだものと思われる。

2 シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai

北蒲原郡笹神村(現阿賀野市) 折居折居川左岸90m:TY-26721・26722(2000. 6. 18) [新発田392376-21, 環境省3次メッシュ5639-62-16]

『笹神村史 資料編5 自然』(2002)の「シダ植物」の節で、シロヤマシダの記述の基となった資料である。スギ林に2株生え、ともにソーラスはなかった。

東蒲原郡阿賀町上戸谷渡 石戸(川くるみ川左岸) 60m:TY-32070(2009. 4. 5) [津川392375-22, 環境省3次メッシュ5639-42-96]

スギ林下のリョウメンシダが群生した斜面に5株生え、ジュウモンジシダ、リョウメンシダが混生していた。いずれの個体もやや小さく、ソーラスがついている個体とついていない個体があった。

南蒲原郡田上町田上 川ノ下 才歩川右岸30m:TY-32703(2009. 11. 23) [新津391375-21, 環境省3次メッシュ

5639-40-36] ; 田上 川ノ下 才歩川支流 (ニノ沢左岸) 70m:TY-32720・32721(2009.11.23) [新津391375-21, 環境省3次メッシュ5639-40-37]

(才歩川右岸) : スギ林の平坦地に散生している。このスギ林には、オオバノハチジョウシダ、キヨスミヒメワラビ、イワヤシダ、ヒロハイヌワラビ、セイタカシケシダなど、ごく狭い範囲に極めて多種のシダが生えている。

(ニノ沢右岸) : スギ林の緩斜面に所々かたまって生え、リョウメンシダ、オオヒメワラビ、イワガネゼンマイが混生していた。

刈羽郡刈羽村赤田北方東福院裏50m:TY-26591・26592(2000.1.16)・TY-30953(2007.2.12) [柏崎383373-32, 環境省3次メッシュ5638-05-92]

スギ林の斜面で、3m×5mほどの範囲に密生し、ミゾシダ、リョウメンシダ、ベニシダが混生していた。被度はほぼ100%、密生して個体数はかなりあるのだが、7年たっても生育範囲がほとんど広がっていない。

三島郡和島村(現長岡市)両高 坂谷 神明社  
40m:TY-27427・27433(2001.8.12) ; 50m:TY-27440(2001.8.12) [出雲崎383374-42, 環境省3次メッシュ5638-25-99] [写真1]

モウソウチクを交えたスギ林の斜面に群生していた。ホソバイヌワラビ、シケチシダ、ヤブソテツ、リョウメンシダが混生し、付近の林下には、ベニシダ、イノデ、アイアスカイノデ、サカゲイノデ、ホクリクイノデ、ヤマヤブソテツ、ウラゲイワガネ、ヤマイヌワラビ、イワヒメワラビ、トラノオシダがあった。

この生育地の発見は田村孝雄氏(柏崎市)による。



写真1 シロヤマシダ 長岡市両高

西頸城郡能生町(現糸魚川市)能生55m:TY-24933(1998.3.4) [糸魚川374371-43, 環境省3次メッシュ5537-57-29]

能生白山神社社叢に近い小丘のスギ林の斜面に生え、ベニシダが混生していた。社叢には本種が生育しており、孢子が飛散し、ここに繁殖したものと思われる。

西頸城郡青海町(現糸魚川市)青海 総合グラウンド南  
70m:TY-26648(2000.4.9) ; 75m:TY-26649(2000.4.9) [糸魚川374371-11, 環境省3次メッシュ5537-46-14]

スギ林の緩斜面に群生し、ジュウモンジシダ、サカゲイノデ、リョウメンシダが混生していた。



写真2 ヒロハヤブソテツ 東蒲原阿賀町

### 3 ヒロハヤブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

東蒲原郡阿賀町西<林道赤岩線>250m:TY-32104・32105(2009.4.18)・TY-32112(2009.5.3) [津川392375-31, 環境省3次メッシュ5639-43-03] [写真2]

スギ・落葉広葉樹林縁の北西向急斜面に10株ほど生え、リョウメンシダ、サカゲイノデ、クジャクシダ、コタニワタリ、ヤマヤブソテツ、ミゾシダが混生していた。

羽片の基部が丸いものと楔形のもの混じった個体であり、ここではヒロハヤブソテツとして報告するが、ツクシヤブソテツとすべきものかも知れない。

#### 4 オニカナワラビ *Arachniodes simplicior* (Makino) Ohwi var. *major* (Tagawa) Ohwi

新発田市荒川荒川左岸50m:TY-31264(2007.9.17) [新発田392376-22, 環境省3次メッシュ5639-62-56]  
スギ林の急斜面に生え、オオキジノオ、トウゴクシダ、ヤマイヌワラビが混生していた。

東蒲原郡三川村(現阿賀町)谷花 小花地<林道大清水沢線>70m:TY-28578(2002.11.23) [津川392375-31, 環境省3次メッシュ5639-43-21]

スギ林縁の北北東向斜面に1株だけ生え、ワラビ、ホソバナライシダ、トラノオシダが混生していた。

南蒲原郡田上町羽生田 羽生田川右岸70m:TY-29953(2005.6.25) [新津391375-21, 環境省3次メッシュ5639-40-27]

落葉広葉樹林の急斜面に生え、ヤマイヌワラビ、ミゾシダ、リョウメンシダが混生していた。1株から3葉出ていたが、3葉ともソーラスはなかった。

高橋務氏(田上町)に現地を案内していただき、1984年に牧野恭次氏が発見したものが、20年以上生育し続けていることを確認した。付近にはヤマアイが多い。

五泉市馬下 鳴沢大沢左岸斜面130m:TY-30475(2006.4.30) [津川392375-12, 環境省3次メッシュ5639-42-72]

アカガシにスギ、落葉広葉樹を交えた林の東北東向斜面に生え、シシガシラが混生していた。ソーラスを持たない1株しか見なかったが、付近には暖地性のアカガシが多く、オニカナワラビは精査すればまだあると思う。

長岡市(旧三島郡越路町)岩田 墓間<林道南河内山田線>100m:TY-32699(2009.11.22) [柏崎383373-41, 環境省3次メッシュ5638-05-38]

落葉広葉樹林縁の南向急斜面に1株だけ生え、イワガネソウ、ゲジゲジシダ、ヤブソテツが混生していた。葉にはソーラスが付いていなかった。約1.5m離れた所にイノモトソウがあった。『越路町史別編1自然 シダ植物の分布』(1998 牧野恭次)には、越路町のオニカナワラビの分布記録はなく、これが町の新記録となる。

長岡市栖吉 栖吉神社120m:TY-32597(2009.10.25) [長岡384373-33, 環境省3次メッシュ5638-17-02]

スギ林の南南西向急斜面に2株生え、シシガシラ、ホソバナライシダが混生していた。2株のうち、1株にはソーラスがなかった。

当地は、多くの植物研究者が訪れており、『新潟県の羊歯植物誌』(牧野恭次 2000)にも記録がないので、近年入り込んできたものと思われる。

刈羽郡刈羽村赤田町方 曾地農場北30m:TY-26581(2000.1.16)・TY-30988(2007.3.10) [柏崎383373-32, 環境省3次メッシュ5638-05-82]

ヤダケ林縁の南南西向急斜面(農道の法面)に多数かたまって生え、オクマワラビが混生していた。2007年3月10日は、周囲一帯積雪下だったが、この生育地には雪が全くなかった。測定データはないが、7年前よりわずかに増えたようである。

#### 5 キヨスミヒメワラビ *Dryopsis maximowicziana* (Miq.) Holttum et Edwards

南蒲原郡田上町田上 川ノ下 才歩川右岸30m:TY-32706(2009.11.23) [新津391375-21, 環境省3次メッシュ5639-40-36]

スギ林の平坦地に1株のみ生え、ミゾシダ、リョウメンシダ、オオバノハチジョウシダが混生していた。このスギ林には、シロヤマシダ、イワヤシダ、ヒロハイヌワラビ、セイタカシケシダなど、ごく狭い範囲に極めて多種のシダが生えている。

#### 6 サイゴクイノデ *Polystichum pseudo-makinoides* Tagawa

長岡市(旧三島郡越路町)飯塚<林道沢下条八幡線>あま池110m:TY-32659(2009.11.8) [長岡384373-12, 環境省3次メッシュ5638-06-60]

落葉広葉樹を交えたスギ林の東向斜面に1株だけ生え、ヤワラシダが混生していた。株には6葉あり、ソーラス

も付いていた。付近の林下にはシダ類が少なく、ゼンマイ、ベニシダ、ミゾシダ、イヌワラビ、シシガシラが散生しているだけである。『越路町史別編1 自然 シダ植物の分布』（1998 牧野恭次）には、越路町のサイゴクイノデの分布記録はなく、これが町の新記録となる。

#### 7 ツヤナシイノデ *Polystichum ovato-paleaceum* (Kodama) Kurata

三条市飯田 里山北170m:TY-32171(2009. 6. 20) [加茂391374-13, 環境省3次メッシュ5639-30-33]

スギ林の斜面に1株だけ生え、リョウメンシダ、ミゾシダ、ゼンマイが混生していた。株には12葉あった。付近一帯はサカゲイノデが群生しており、丹念に探したものの、ツヤナシイノデは1株しか見いだせなかった。

#### 8 ハシゴシダ *Parathelypteris glanduligera* (Kunze) Ching

上越市浦川原区手島 (ハギノの池西岸) 15m:TY-32572(2009. 10. 18);手島30m:TY-32564(2009. 10. 18) [柿崎382372-31, 環境省3次メッシュ5538-63-30]

15m:落葉樹を交えたスギ林の斜面に散生し、オシダ、ミゾシダ、ヤワラシダと混生していた。暖地性の本種が寒地性のオシダと混生するのは珍しい。林縁にはウラジロが散生していた。

30m:スギ林の緩斜面に生え、アイアスカイノデ、サカゲイノデ、シシガシラが混生していた。林床にはホソバイヌワラビ、ミドリヒメワラビ、オオベニシダ、イノデなど、シダ類が優占している。

#### 9 メニッコウシダ *Parathelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching var. *borealis* (Hara) Nakaike

上越市板倉区関田 光ヶ原高原 菅谷池北1000m:TY-32385・32386(2009. 9. 17) [高田東部382381-31, 環境省3次メッシュ5538-43-01]

ブナ林の斜面に散生し、シシガシラ、ヤマソテツ、シノブカグマ、ハリガネワラビ、カラクサイヌワラビ、ヤマドリゼンマイと混生していた。包膜に毛がなく、腺のみだったので、メニッコウシダと同定した。

牧野恭次氏は『じねんじょ14 黒倉山のシダ植物相』（1990）で、「黒倉山のシダの多産地はいずれも長野県側」と記され、その中にケヒメシダが報告されている。今回、新潟県側で発見したので記録する。

### 分布新上限

#### 1 フモトシダ *Microlepia marginata* (Panzer) C. Chr.

長岡市浦瀬町高津谷城址340m:TY-32302(2009. 08. 11) [長岡384373-34, 環境省3次メッシュ5638-17-54]; 栖吉町栖吉城址280m:TY-32499(2009. 10. 04) [長岡384373-33, 環境省3次メッシュ5638-17-03]

新潟県の分布上限は南蒲原郡田上町護摩堂山268mであった（新潟県植物分布図集第2集 1981）が、さらに高海拔地点を記録する。

分布新上限となる浦瀬町340m地点のものは、スギ林の斜面に100葉以上群生し、ゼンマイ、リョウメンシダ、ヤマイヌワラビが混生していた。

#### 2 ホソバイヌワラビ *Athyrium iseanum* Rosenst.

新発田市田貝二王子岳370m:TY-31556(2008. 6. 7) [新発田392376-42, 環境省3次メッシュ5639-63-86]

長岡市成願寺町八方台540m:TY-32495(2009. 10. 4) [長岡384373-33, 環境省3次メッシュ5638-17-04]

魚沼市折立又新田<林道高石中ノ又線>480m:TY-32361(2009. 8. 29) [須原391372-11, 環境省3次メッシュ5539-60-02]

南魚沼郡湯沢町中里430m:TY-29375(2004. 6. 13) [越後湯沢384366-23, 環境省3次メッシュ5538-36-08]

秋田県由利郡象潟町（現にかほ市）大砂川400m:TY-20477(1993. 10. 10);TY-26512(1999. 11. 27) [吹浦394391-44, 環境省3次メッシュ5839-47-66]

福島県耶麻郡猪苗代町山潟 田子沼515m:TY-28794(2003. 6. 9) [猪苗代湖401373-44, 環境省3次メッシュ5640-11-75]

『新潟県西部のシダ植物』（新潟県立新井高等学校生物クラブ 1966）には、ホソバイヌワラビの東頸城郡板倉町（現上越市板倉区）関田峠付近約1000mの記録があり、「他の暖地性シダと比べ、本種とウラジロは、比較的高地にも見られる」として注目している。2009年、筆者は関田峠付近を訪れる機会があり、本種に注意を払って歩いたが、山道沿いには見当たらなかった。

『新潟県植物分布図集第2集』（1981）で、牧野恭次は、本種の分布図において、前述の関田峠の記録には触れていない（おそらく標本で確認できなかったからだと思われる）。分布図の掲載標本の中では、北魚沼郡小出町（現魚沼市）駒ノ湯360mが新潟県の分布最高地点となる。

分布図が示されてから約30年、分布状況に注意してきたが、現在のところ新潟県内で標本として確認できた分布上限は八方台540mである。筆者は、秋田県で海拔400m、福島県会津地方で515mの分布を確認しており、新潟県では、まだ他にも高海拔の分布地があるものと考え。大方の注意をお願いしたい。

### 3 オクマワラビ *Dryopteris uniformis* (Makino) Makino

中頸城郡妙高高原町（現妙高市）杉野沢710m:TY-18705(1992. 9. 12) [妙高山381366-31]; 赤倉710m:TY-9890(1986. 10. 19) [妙高山381366-42]

魚沼市湯之谷芋川<林道高石中ノ又線>750m:TY-32351(2009. 8. 29) [須原391372-11, 環境省3次メッシュ5539-60-22]

福島県会津若松市門田町黒岩 奴田山710m:TY-31679(2008. 08. 22) [若松394373-44, 環境省3次メッシュ5639-17-56]

田村市常葉町堀田<県道あぶくま洞都路線>740m:TY-31894(2008. 11. 02) [常葉403373-31, 環境省3次メッシュ5640-05-14]

新潟県の分布上限は南魚沼郡湯沢町貝掛温泉700mであった（新潟県植物分布図集第7集 1986）が、さらに高海拔地点を記録する。

分布新上限となる湯之谷芋川750m地点のものは、林道のコンクリート吹き付け斜面の排水孔に生えていた。福島県会津地方、中通り地方でもほぼ同じ海拔の産地を確認した。

### 4 ミドリヒメワラビ *Macrothelypteris viridifrons* (Tagawa) Ching

西蒲原郡巻町（現新潟市西蒲区）福井<林道落ヶ谷線>170m:TY-29452(2004. 8. 22) [弥彦384375-23, 環境省3次メッシュ5638-56-16]

東蒲原郡阿賀町中ノ沢<林道石戸中ノ沢線>220m:TY-30039(2005. 7. 30) [津川392375-23, 環境省3次メッシュ5639-52-09]; 谷花<林道黒岩大牧線>165m:TY-30156(2005. 9. 3) [津川392375-31, 環境省3次メッシュ5639-43-31]; 日出谷当麻210m:TY-31186(2007. 8. 19) [大日岳393375-11, 環境省3次メッシュ5639-44-43]

中蒲原郡村松町（現五泉市）高石<県道新潟村松三川線>320m:TY-30396(2005. 11. 5) [津川392375-11, 環境省3次メッシュ5639-42-24]

長岡市釜沢町南蛮山270m:TY-32339(2009. 8. 22) [長岡384373-32, 環境省3次メッシュ5638-07-60]

小千谷市蕨生<林道蕨生木津線>200m:TY-32454・32455(2009. 9. 22) [小千谷384372-24, 環境省3次メッシュ5538-76-67]

長岡市沢下条<林道沢下条八幡線>220m:TY-32660(2009. 11. 8) [柏崎383373-42, 環境省3次メッシュ5638-05-79]

柏崎市小杉220m:TY-31632(2008. 8. 11) [柿崎382372-44, 環境省3次メッシュ5538-73-78]

福島県耶麻郡西会津町野沢（雷山生活保全林）215m:TY-29721(2004. 11. 23); 220m:TY-29722(2004. 11. 23) [野沢393374-32, 環境省3次メッシュ5639-25-81]; 野沢 水沢<九才坂峠道>300m:TY-31309(2007. 10. 7) [野沢393374-22,

環境省3次メッシュ5639-24-87]; 野沢 安座245m:TY-31323(2007. 10. 7)[野沢393374-22, 環境省3次メッシュ5639-24-88]

河沼郡河東町八田 上強清水530m:TY-29430(2004. 8. 12)[磐梯山401374-11, 環境省3次メッシュ5640-20-10]

耶麻郡猪苗代町金田 川崎515m:TY-29167(2003. 12. 1)[磐梯山401374-31, 環境省3次メッシュ5640-21-00]

郡山市熱海町安子島安積山<磐梯熱海道>455m:TY-22498(1995. 8. 22);460m:TY-22499(1995. 8. 22)[郡山402373-14]

新潟県で本種の垂直分布は、低海拔地に限られ、1997年発行の新潟県植物分布図集第18集の分布図によれば、十日町市新宮神社160mが分布最高地点となる。筆者は、本種の分布図作成を担当し、牧野恭次氏の標本も通覧したが、『新潟県の羊歯植物誌』(牧野恭次 2000)には、牧野氏が1989年に採集した十日町鉢の石仏「300m」の標本があり、この資料を見落とししたようである。ここでは、分布図集第18集の分布最高地点160mよりも高海拔地点を記録する。

分布新上限となる高石320m地点のものは、スギ林縁の斜面に生え、ゼンマイ、ホソバナライシダ、リョウメンシダが混生していた。

福島県会津地方では、320mより高海拔のところまで本種が生育し、分布地も産量も少なくない。それに比べ、新潟県内で低海拔地に限られているのは大変興味深い事実である。

#### 5 ヤワラシダ *Metathelypteris laxa* (Franch. et Sav.) Ching

上越市板倉区黒倉山1130m:TY-32416(2009. 9. 18)[飯山382366-34, 環境省3次メッシュ5538-33-71]

長野県飯山市一山 鍋倉山1030m:TY-32410(2009. 9. 18)[飯山382366-34, 環境省3次メッシュ5538-33-61]

新潟県の分布上限は1100mであった(新潟県植物分布図集第13集 1992)が、さらに高海拔地点を記録する。分布図集第13集のヤワラシダの項において、垂直分布図では1100mの打点が最も高海拔であるが、産地の記載がなかった。登載標本のデータでは南魚沼郡湯沢町栄太郎峠940mが最も高海拔であった。

分布新上限となる黒倉山1130m地点のものは、ブナ林の斜面に生え、シシガシラ、オオバショリマが混生していた。黒倉山・鍋倉山(山頂海拔1289m)の長野県側のブナ林では、ヤワラシダが多産する。